

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和元年度
宮城県意見交換会(第2回)

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
2019年10月18日

● 目次

1. 意見交換会の概要
2. 第1回意見交換会・事後調整の結果
3. 「実践の場」（案）
4. スケジュール

＜参考資料＞

- ・観光ビジョン・SDGs未来都市計画・意見交換会の繋がり
- ・DMO（観光地域づくり法人）とコンソーシアム構想の関係性
- ・岩手県意見交換会の検討事項
- ・福島県意見交換会の検討事項

本協議会では意見交換会を、復興庁と会員団体等（主に副代表団体）が活動情報を互いに共有し、地域の課題解決に向けて協議・協働を生み出す場と位置付けています。

今年度は特に、副代表団体以外の会員団体の巻き込み・議論の活性化・団体の活動につながる成果創出に注力します。

意見交換会の目的

復興庁と会員団体等（主に副代表団体）が活動情報を共有し合うとともに、地域の課題解決に向けた、多様な主体による協議・協働を生み出すこと

意見交換会の取組に対するご意見^{*1}

- ・民間のパワーを巻き込み、関連するものを具体的なテーマとして扱えると良い
- ・アイディアだけでなく具体的なアクションに繋げたい
- ・地域でチャレンジをしている人を、各会員の持つ支援メニューを活用してサポートするスキームが必要
- ・地域振興に携わる方等にも関与してもらえると良い

実施上のポイント

会員団体の巻き込み
(横の連携)

議論のさらなる活性化

団体の活動につながる
成果の創出

令和元年度 意見交換会の方向性

- ✓ テーマに関する会員団体（「連携対象団体」）に意見交換会へ参加してもらい、地域課題解決に向けた議論や「実践の場」の企画に共同で取り組む。
- ✓ 参加団体^{*2}や連携対象団体の活動をより深め・広げるための活動を「実践」と定義し、意見交換会の成果として自律的・継続的な「実践」を生み出す。

● 1. 意見交換会の概要 — 過去2年間の経緯

第1回資料再掲

過去2年間の意見交換会では「ソーシャルセクターとの連携」をテーマの軸に議論を展開。今年度以降に向けては、取組地域の再検討や昨年挙がったアイディアをもとにしたアクションの具体化、外国人労働者に対する支援などがテーマ案として挙がっておりました。

平成29年度

コミュニティづくり、ソーシャルセクター

- 第1回
- ・趣旨説明
 - ・活動紹介

- 第2回
- ・活動紹介
 - ・テーマ議論

- 第3回
- ・活動紹介
 - ・テーマ議論

- 第4回
- ・活動紹介
 - ・調査内容の検討

「NEW TOHOKU PITCH Vol.0」
ソーシャルセクターによる「新しい東北」
創出のビジネスモデル等をピッチ形式で議論

- 第5回
- ・活動紹介
 - ・調査結果を議論
 - ・来年度テーマの検討

平成30年度

セクター間連携による地域課題解決

- 第1回
- ・趣旨説明
 - ・活動紹介
 - ・当年度のテーマの検討

- 第2回
- ・活動紹介
 - ・テーマ議論
 - ・イベント内容の検討

「南三陸をつなげる30人」
フューチャーセッションを通じて、南三陸の
将来像や、課題解決に向けたセクター間連携
の在り方を検討。

- 第3回
- ・活動紹介
 - ・イベントの振り返り
 - ・来年度以降のテーマ案検討

今年度以降のテーマ案

- ・取組地域の再検討（南三陸で
継続実施 or 別地域に展開）
- ・「南三陸をつなげる30人」の
アイディアをもとにした、今後
の具体的なアクションの検討
- ・外国人労働者の支援等に関する
企業・NPOの協働策

● 1. 意見交換会の概要 — 今年度の進め方

第1回資料再掲

昨年度同様、全3回の意見交換会と「実践の場」を開催予定です。

テーマに関わりの深い「連携対象団体」に第2回の議論から参画いただくことで、地域でチャレンジしている人を巻き込んだ「実践の場」の企画や、「実践」の継続を目指します。

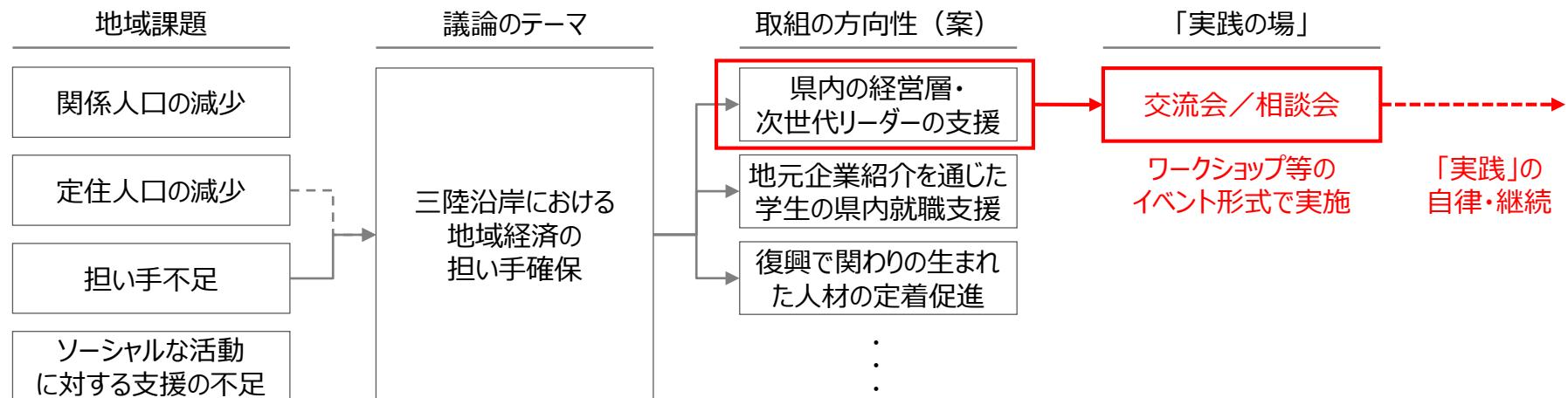
	実施事項（案）	取り組みのポイント
第1回	<ol style="list-style-type: none">意見交換会の趣旨、過去経緯（他県含む）の説明今年度の方針説明参加団体の今年度活動内容の紹介今年度テーマの検討（連携対象団体の検討含む）	<ul style="list-style-type: none">✓ テーマを決定するとともに、第2回以降から参画してもらう連携対象団体についても議論する
第2回	<ol style="list-style-type: none">参加団体の活動紹介連携対象団体によるプレゼンテーション等テーマ議論「実践の場」の内容検討（連携対象団体を企画時から巻き込む）	<ul style="list-style-type: none">✓ 連携対象団体より、現在の活動内容やテーマに対する問題意識・展望などについて共有してもらう✓ 上記を踏まえて、地域でチャレンジをしている人を巻き込んだ「実践の場」や連携の在り方を議論する
実践の場	「実践の場」の詳細設計～開催～結果整理	<ul style="list-style-type: none">✓ 会員団体の生業（活動）を深化・拡大させることや、継続的なアクションに繋げることを目的とする
第3回	<ol style="list-style-type: none">参加団体の活動紹介「実践の場」の振り返り、今後の展望の議論来年度以降のテーマ案の検討	<ul style="list-style-type: none">✓ 「実践の場」の振り返りに加え、今後の活動や体制を、自立的に継続させるための議論を行う
終了後	「実践」の継続	<ul style="list-style-type: none">✓ 意見交換会終了後も「実践」の継続を目指す

● 【参考】「実践の場」について

意見交換会の議論をもとに、地域課題解決に向けた取り組みを試行することが「実践の場」の目的です。イベント開催に係る費用等を支援いたします。

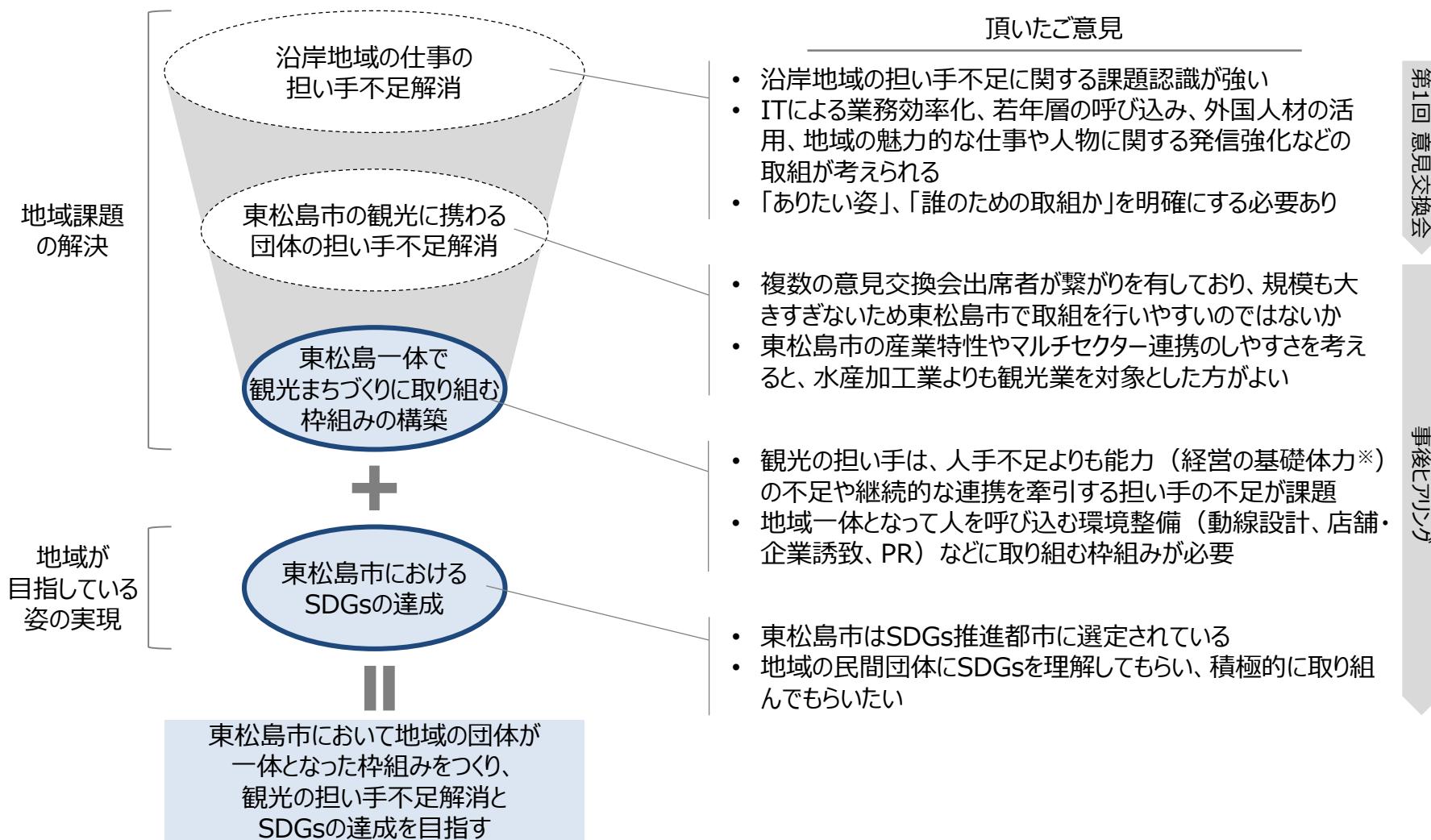
「実践の場」の概要	
目的	意見交換会の議論の中で挙がった、地域課題解決に向けた取組（解決策）を試行すること
活用できるリソース	ワークショップ等のイベント開催に係る以下については復興庁※が支援する • 開催費用（会場費、備品代、外部講師への謝金・交通費など） • 集客（協議会ポータルサイト・Facebookページなどを活用） • 司会／ファシリテーターの手配

■「実践の場」の考え方（イメージ）



● 2. 第1回意見交換会・事後調整の結果

第1回意見交換会で議論したテーマをもとに事後ヒアリングを行った結果、東松島市において地域の団体が一体となつた枠組みをつくり、観光の担い手不足解消とSDGsの達成を目指す方向で決定しました。



● 3. 「実践の場」（案）

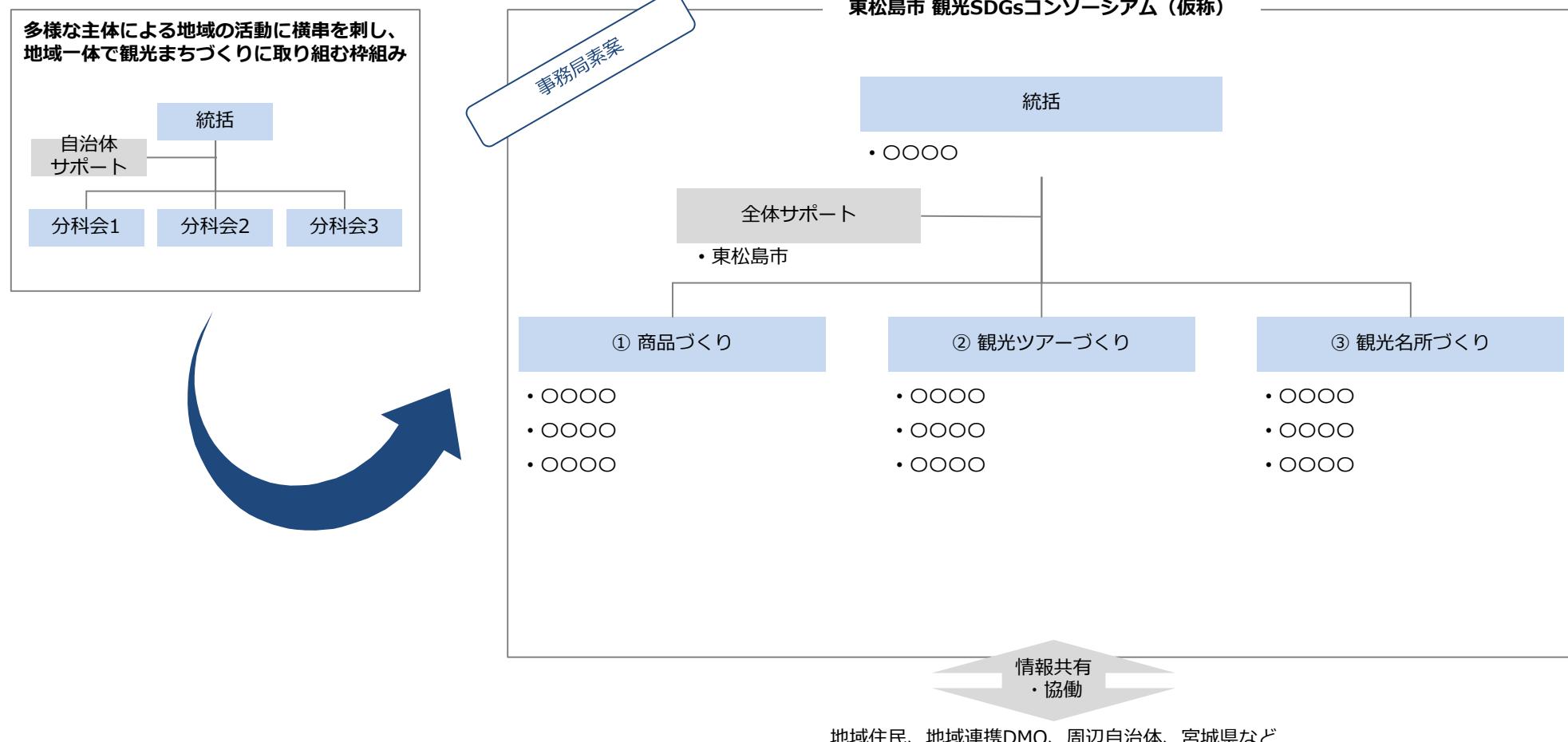
取組や「実践の場」は以下のような案が想定されます。

「実践の場」開催・取組継続の難易度などを考慮すると、コンソーシアム設置を念頭に置いたワークショップの開催が現実的と考えます。

取組の方向性	取組の詳細（案）	「実践の場」（案）			
			実践の場開催の容易さ	取組継続の容易さ	SDGsとの関連性
東松島市において地域の団体が 一体となった枠組みをつくり、 観光の担い手不足解消と SDGsの達成を目指す	1 市の観光ビジョンをもとにした コンソーシアムの設置・運営	a コンソーシアムの構成員（候補）が参加するワークショップを開催し、観光ビジョンをもとに、連携して取り組む施策案や実行計画案を検討する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	2 ナレッジセンターによる 情報集約・マッチング支援	b コンソーシアム全体で、観光ビジョンやSDGsの考えを盛り込んだ観光イベントを企画する	<input type="radio"/>	<input type="triangle-left"/>	<input type="radio"/>
	3 基金の設立・運営	c コンソーシアム全体で「実践の場」の枠を使って、観光ビジョンやSDGsの 考えを盛り込んだ観光イベントを実施する	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		d 補助金やテクノロジートレンド等の情報をもとにマッチングや取組を検討 するアイディアソンを開催する（ナレッジセンター活用の疑似体験）	<input type="triangle-left"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="triangle-left"/>
		e 基金活用を想定したビジネスコンテストを開催する。副代表団体が評価 ・助言し、優良案件には融資も検討する（基金運営の疑似体験）	<input type="triangle-left"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="triangle-left"/>

● 3. 「実践の場」（案）－取組の詳細案・コンソーシアム構想

市内で活動する多様な主体が連携して観光まちづくりに取り組む、以下のようなコンソーシアムの体制を想定しております。



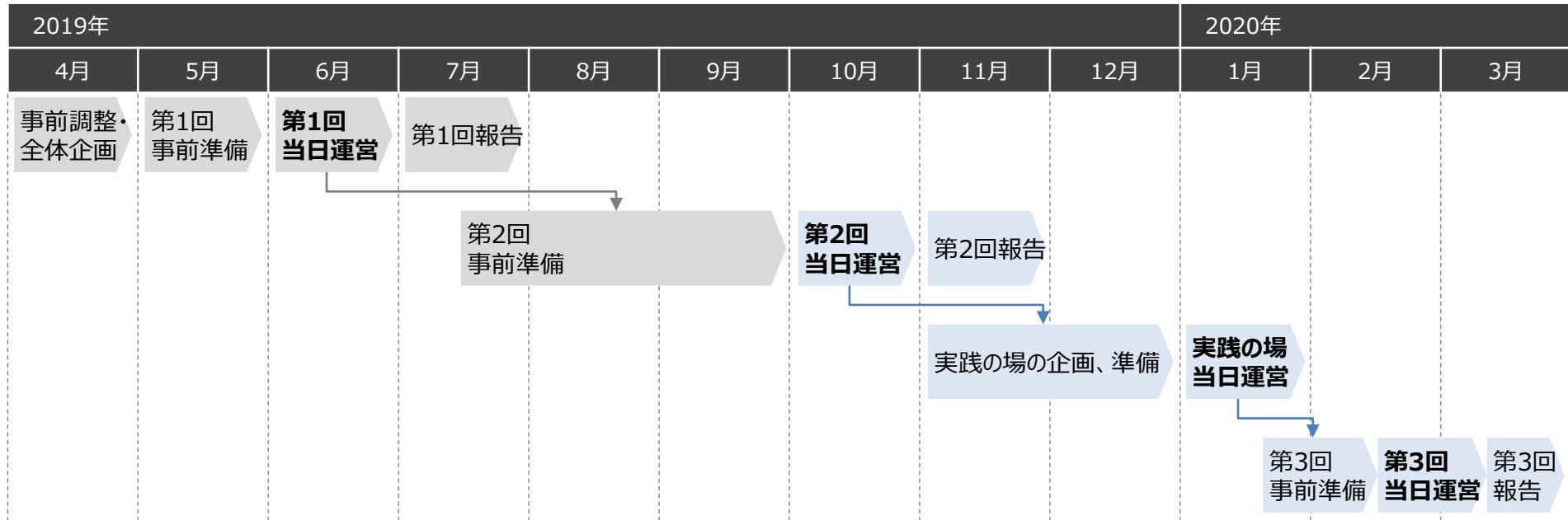
● 3. 「実践の場」（案）－当日のプログラム

「実践の場」では、より具体的な議論ができるようにインプットセミナーを設けることと、「商品づくり」「観光ツアーブル」 「観光名所づくり」に分かれて議論することをご提案いたします。



● 4. スケジュール

意見交換会および実践の場は、以下のスケジュールで推進予定でございます。



(凡例)

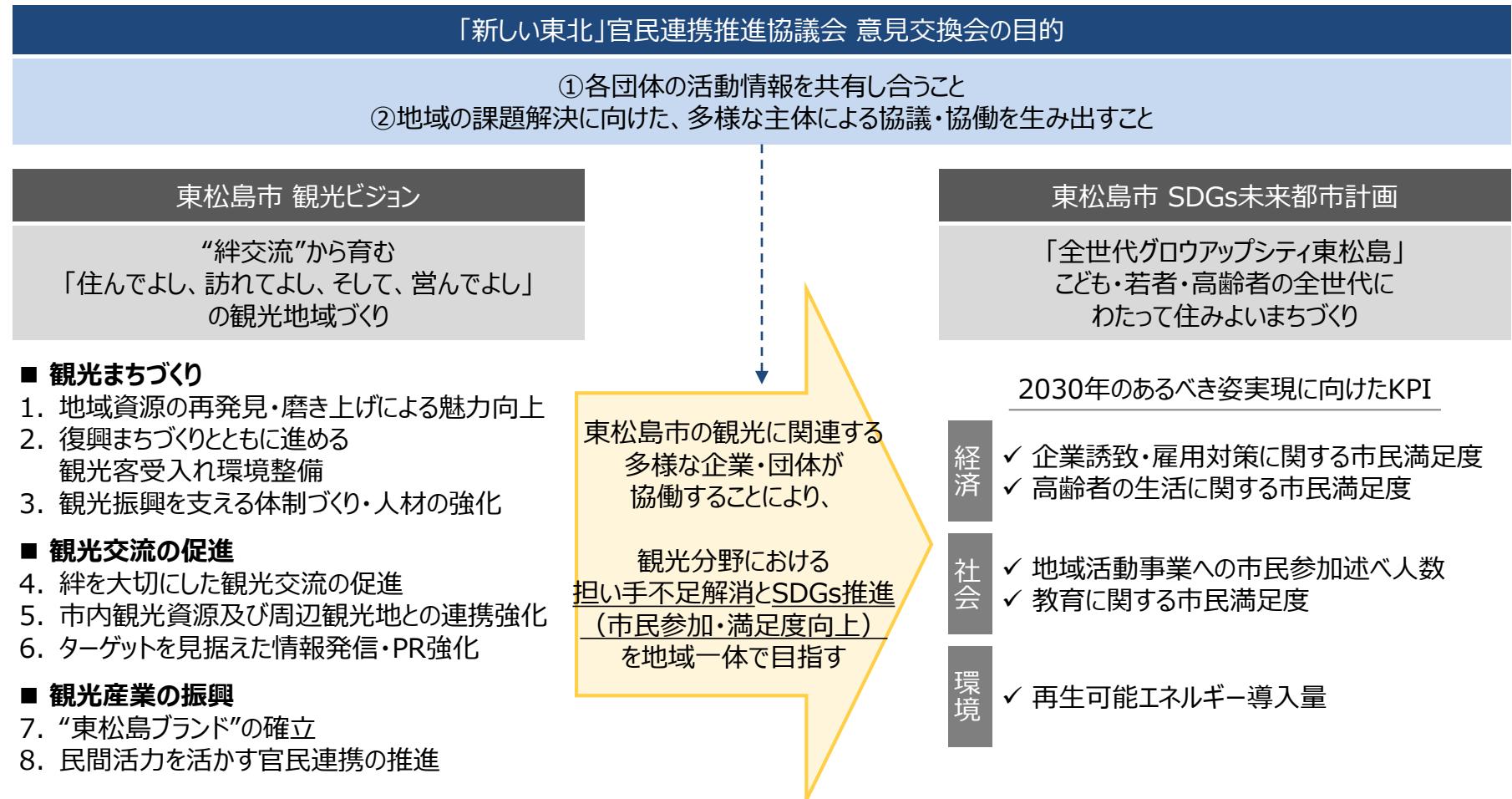
完了

未完了

參考資料

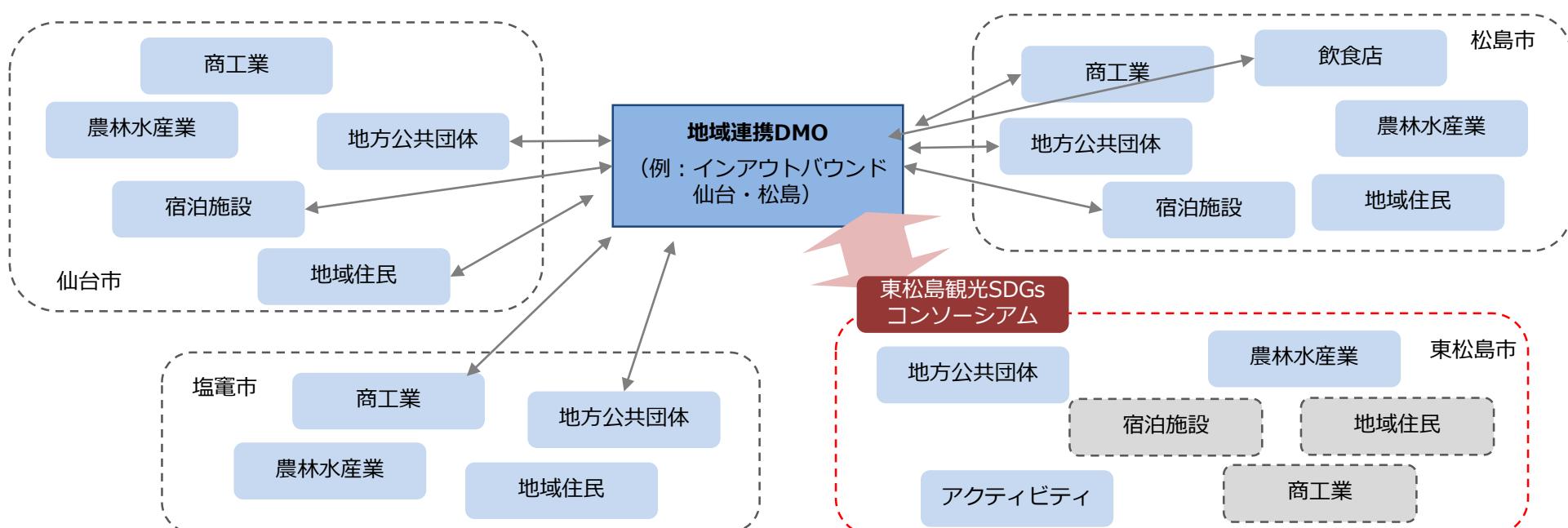
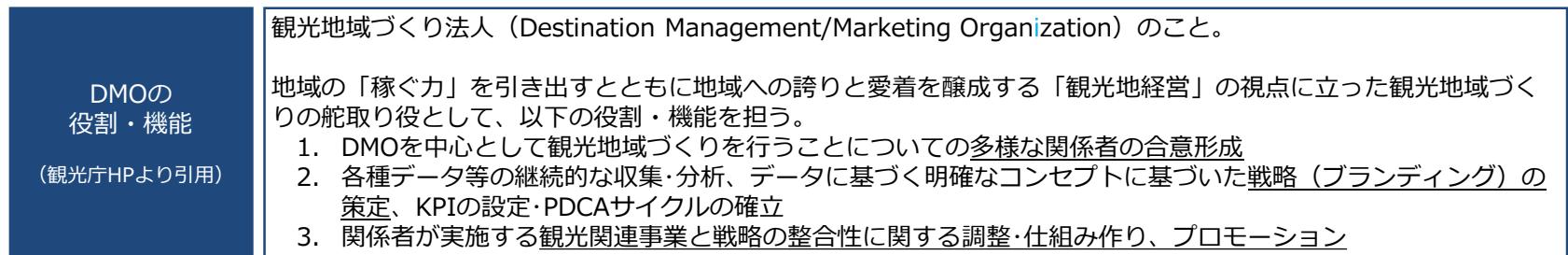
● 観光ビジョン・SDGs未来都市計画・意見交換会の繋がり

意見交換会は地域課題解決に向けた協議・協働の創出を目的としており、宮城県では今年度、東松島市の観光分野における担い手不足解消やSDGsの推進に向けて取組を行いたいと考えております。



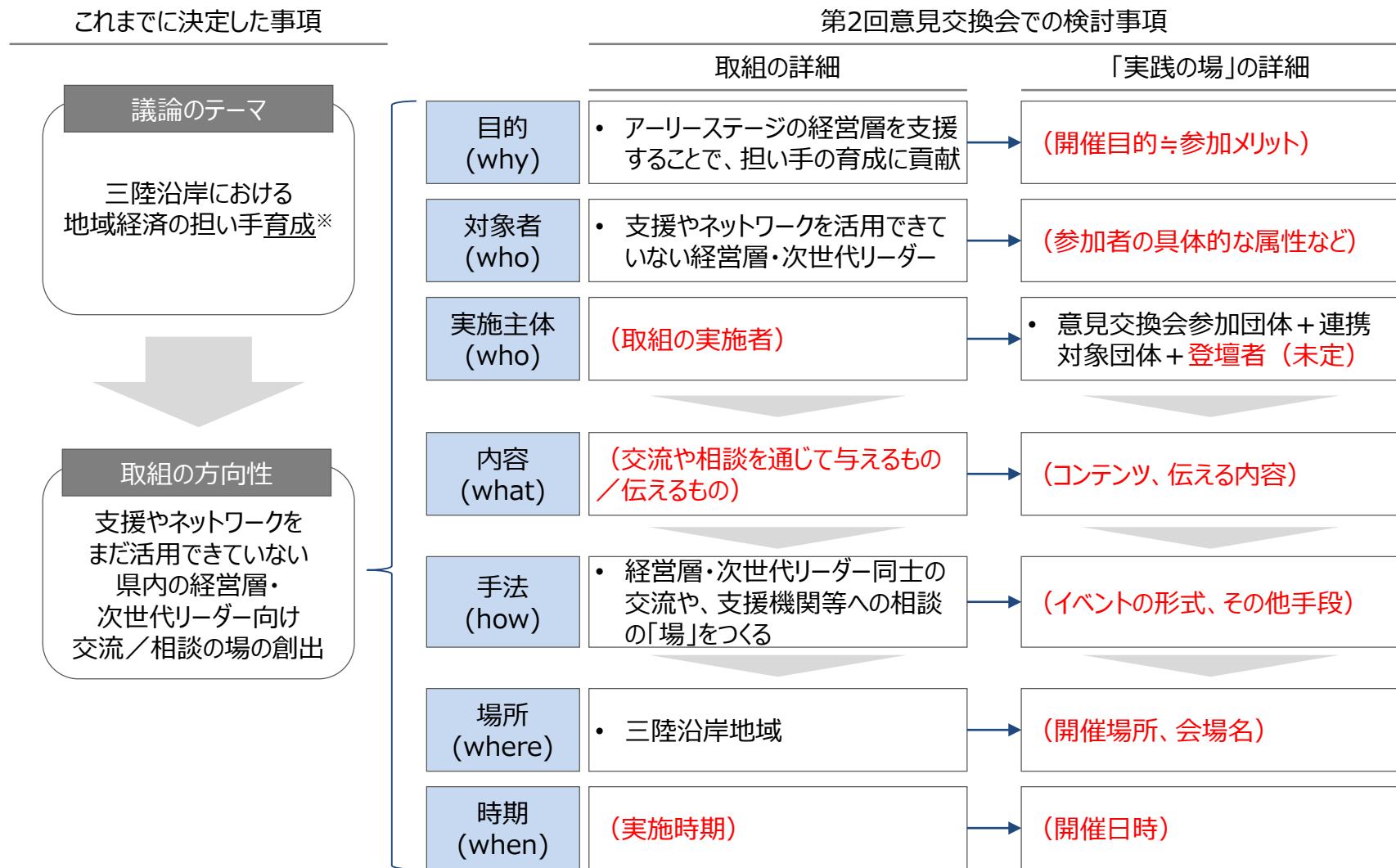
● DMO（観光地域づくり法人）とコンソーシアム構想の関係性

コンソーシアムでは既存の活動では手が届かない市内における観光の担い手の能力不足や牽引役の不在を解消し、地域連携DMOおよび他地域との連携をより効率的に行うことを目指します。そのため、地域／関係者調整を行うDMOと、地域内の課題解決を担うコンソーシアムとは異なる役割をもつ想定です。



既存の枠組みでは活動に参画できていなかった市内の多様な担い手の巻き込みによる協議・協働を生むこと、その活動をとりまとめ推進すること、対外的にPRすることにより、担い手の能力不足や牽引役の不在の解消を目指す。また、地域全体でDMOや他地域と連携することで、効率・効果を高める。

● 岩手県意見交換会の検討事項



※当初は「担い手確保」という表現を用いていましたが、取組の方向性を踏まえると「担い手育成」という表現の方が適切なため変更しました

● 岩手県意見交換会の検討事項 一 例：経営層が抱える悩み

■ 経営層・次世代リーダーが抱える悩みの分類（支援対象者別、支援を受けられていない理由別）

		支援対象者（経営層・次世代リーダーの分類）				
		経営層		次世代リーダー		
支援を受けられていない理由	ベテランの経営者	承継直後の経営者	創業初期の経営者	右腕人材	起業準備中	
	相談相手がない	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他社への人材流出防止 ✓ コンプライアンス対応 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 承継に関わる人間関係の問題 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人材確保 ✓ 組織設計 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 承継に関わる人間関係の問題 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人材確保 ✓ 組織設計
	支援策・枠組みを知らない	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新規事業立案 ✓ 販路開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業計画策定 ✓ 販路開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業計画策定 ✓ 販路開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 承継準備 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業計画策定
	支援策・枠組みの対象外		<ul style="list-style-type: none"> ✓ システム刷新 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 資金調達 ✓ 広報 		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 資金調達 ✓ 広報
	支援の必要性に気づいていない	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 雇用・労働条件の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 雇用・労働条件の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 雇用・労働条件の見直し 		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自社の魅力の客観的な分析
	⋮					

取組内容（案）

同じ悩みをもつ経営層又は克服経験のある経営層との交流

各経営層の状況に合った支援策・枠組みの紹介

既存の支援策・枠組みの隙間を埋める新たな支援の提供

支援側が連携して経営層に対して啓発

● 福島県意見交換会の検討事項

これまでに決定した事項

議論のテーマ
福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）

取組の方向性

福島在住の若年層向けにより身近な・地道に活動している方を紹介する

第2回意見交換会での検討事項

取組の詳細		「実践の場」の詳細
目的 (why)	・ 福島県での暮らし方・働き方に 関する理解促進	(開催目的＝参加メリット)
対象者 (who)	・ 福島在住の若年層 (高校生～大学生)	(参加者の具体的な属性など)
実施主体 (who)	・ 福島在住で、より身近な、地道 に活動されている方	・ 意見交換会参加団体 + 連携対象 団体 + 登壇者（未定）
内容 (what)	・ 福島県内の暮らし方・働き方 の紹介	(コンテンツ、伝える内容)
手法 (how)	・ 若年層に対して直接、暮らし方 ・ 働き方を話して伝える	(イベントの形式、その他手段)
場所 (where)	・ 福島県内	(開催場所、会場名)
時期 (when)	(実施時期)	(開催日時)

● 福島県意見交換会の検討事項 一 例：学生と社会のニーズから考える

